

泡瀬干潟

埋め立て事業ありきの環境アセスメントと
市民参加の欠落

日本自然保護協会 開発法子

着工後の干潟・海草藻場の変化

～海草藻場モニタリング調査結果から

□ 地形変化

- ・砂洲の変形・移動
- ・海草藻場への土砂の堆積

- アセスで予測していない異常事態！
- H18～19の沖での護岸工事、浚渫、埋立実施後に激変

□ 海草群落の消失

- ・潮間帯(陸から500m付近)の海草群落の消失 マツバウミジグサ・コアマモ・ウミジグサ群落
- ・浅場の小型海草群落の消失
マツバウミジグサ-コアマモ群落

26°19' 30"
127°52' 00"

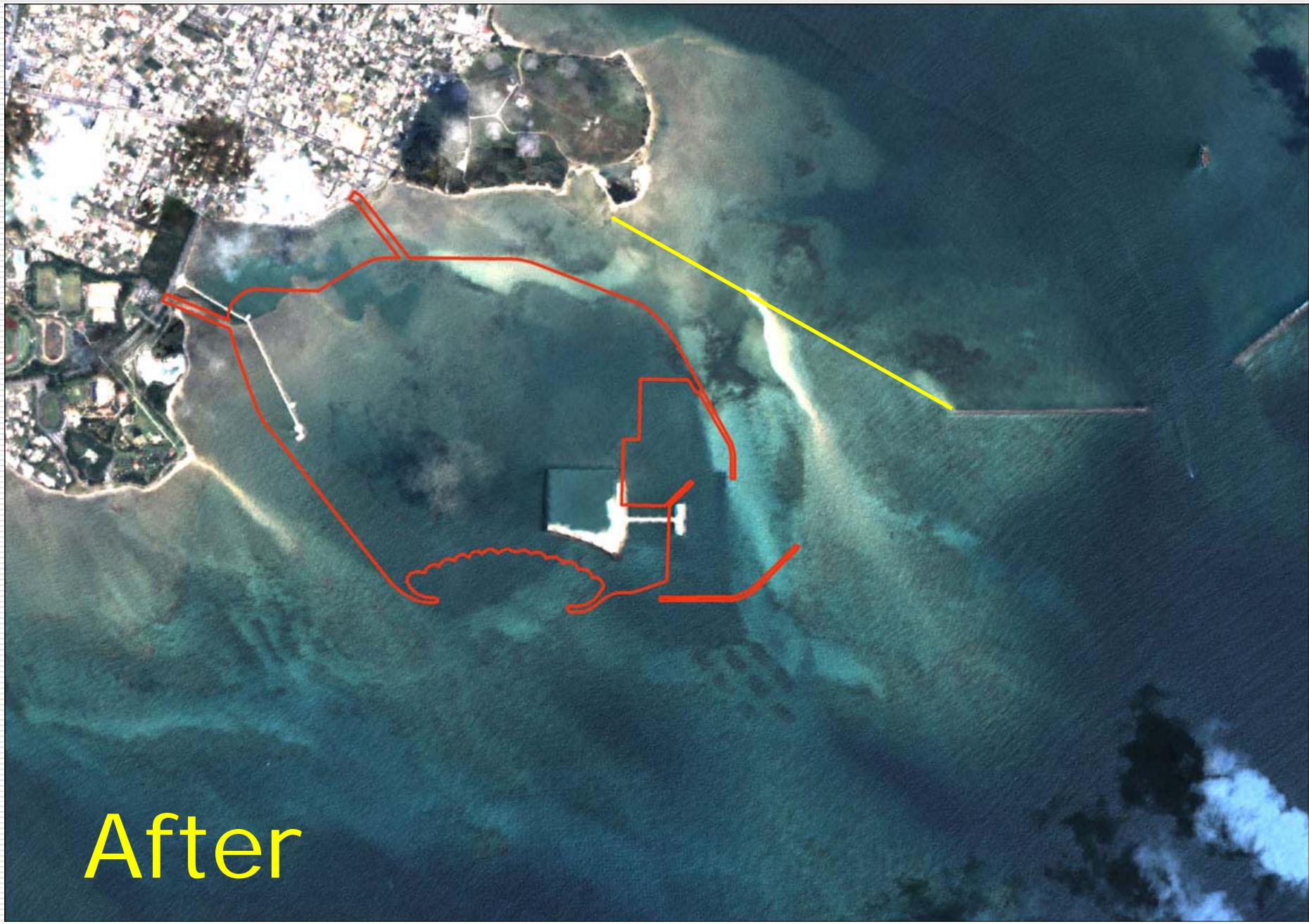


0 500m

Before

127° 49' 00"
26° 17' 32"

2004(H16)年1月



After

2006(H18)年7月

Before



2004(H16)年4月



After

2006(H18)年10月



After

2008(H2O)年8月

2005(H17)年9月

Before



2007(H19)年3月

After



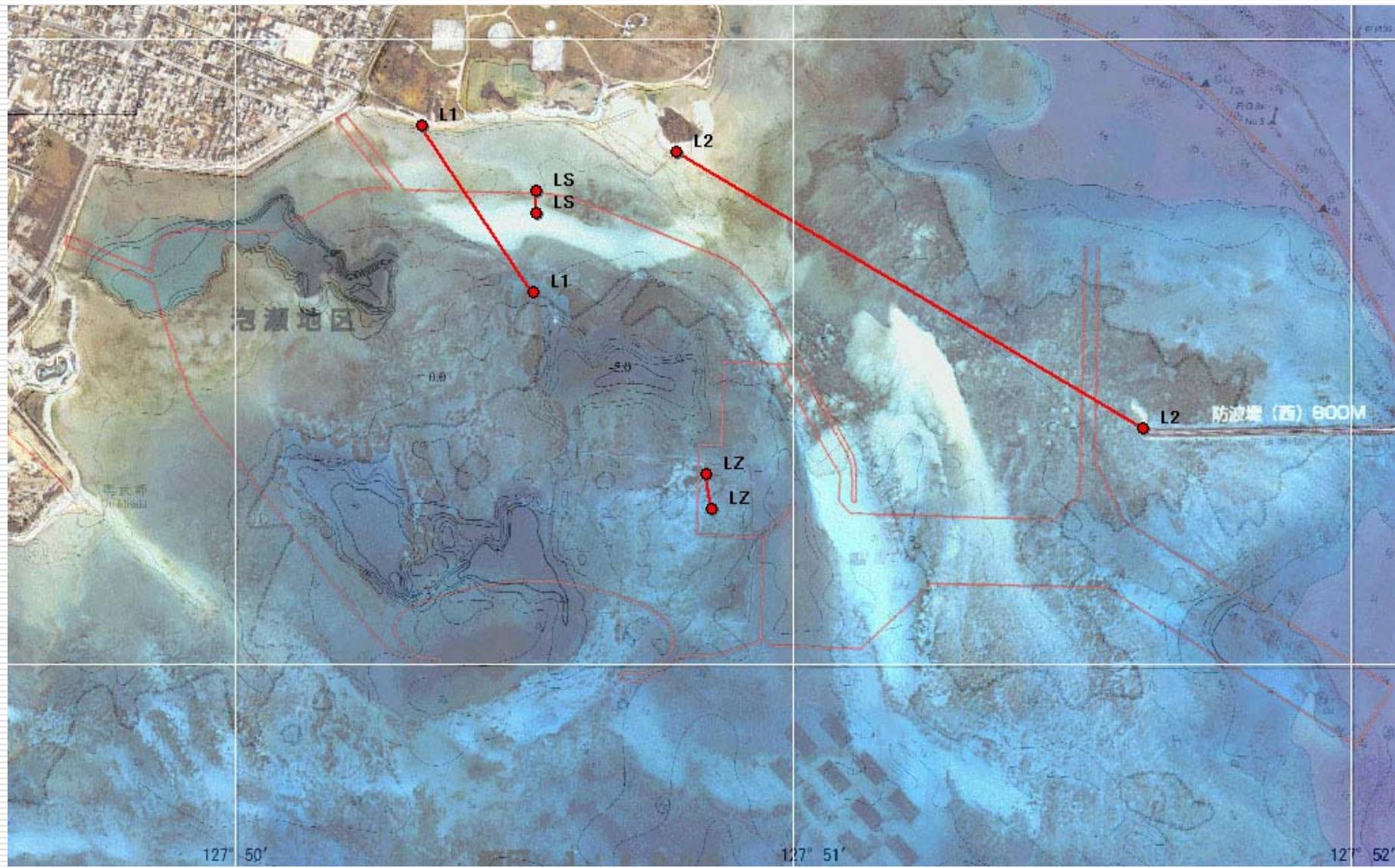
- ・砂洲がS字型に変形
- ・浅場の砂が移動し
藻場上に堆積

写真：泡瀬干潟を守る連絡会

NACS-J

海草藻場モニタリング調査

2003(H15)～





2006(H18)年9月

浅場のマツバウミジグサ・コアマモ群落の変化(LS)

2005(H17)

9月



埋立工事→

2006(H18)

10月



2007(H19)

9月

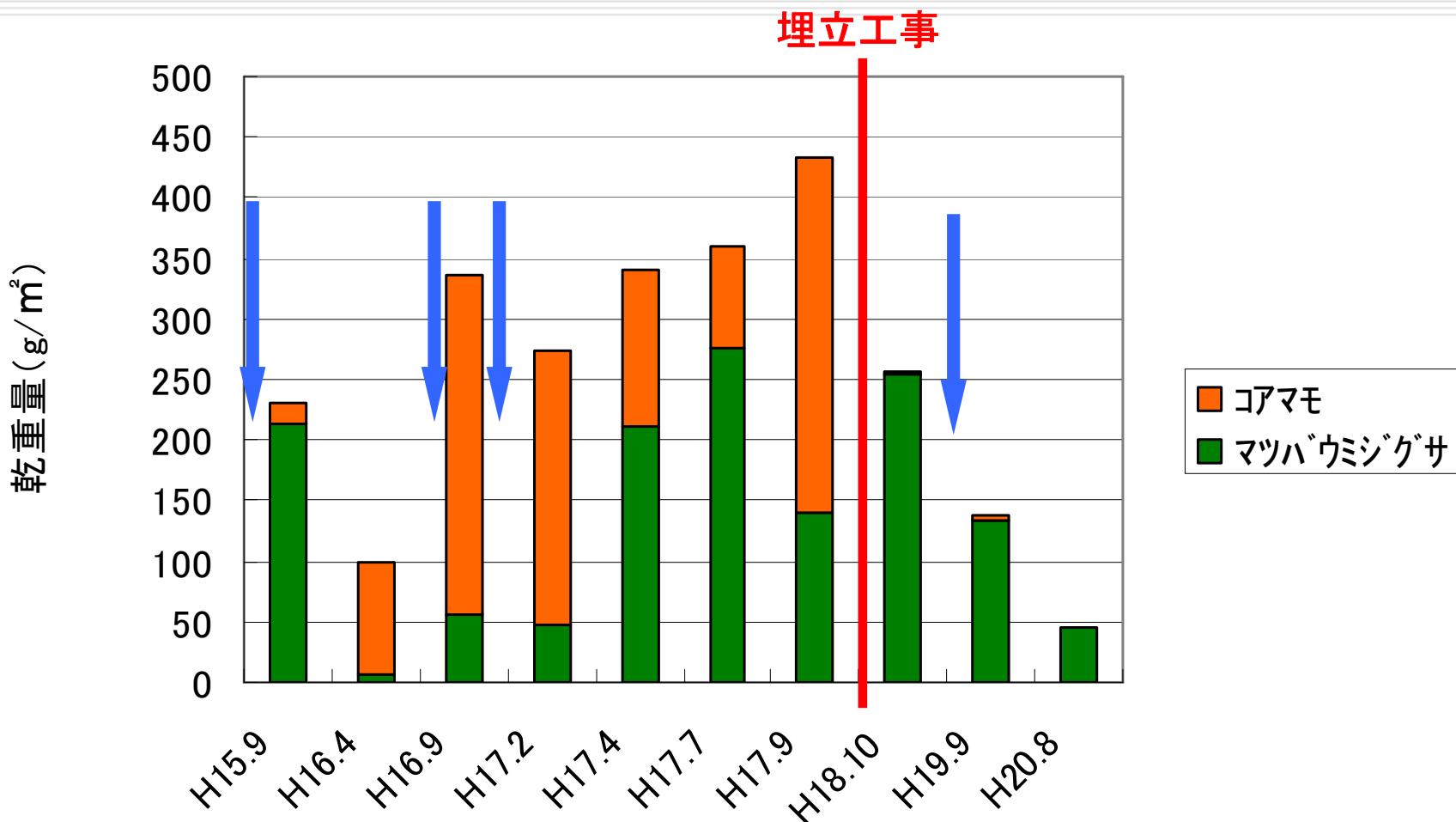


2008(H20)

8月



浅場の小型海草群落 マツバウミジグサ-コアマモ群落(LS)の バイオマスの変化



潮間帯のマツバウミジグサ・ウミジグサ・リュウ キュウスガモ群落の変化(L1)



2004(H16)年4月

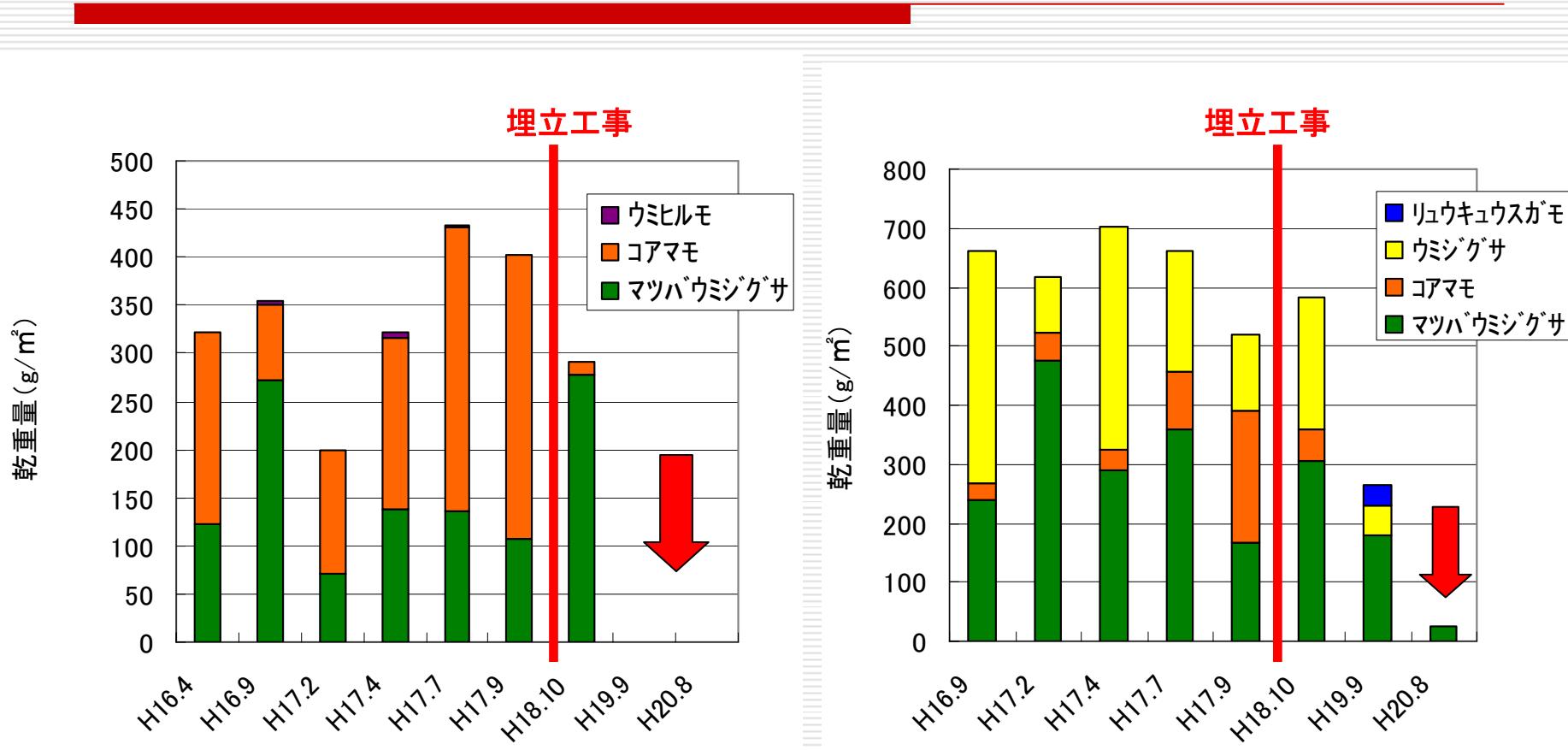


2005(H17)年2月



2008(H20)年8月

潮間帯の海草群落(L1)のバイオマスの変化



マツバウミジグサ-コアマモ群落 (515m地点)

マツバウミジグサ-ウミジグサ群落 (525m地点)

泡瀬干潟埋立事業アセスでは「影響なし」なのに

なぜ、干潟が破壊されていくのか――

埋立ありきのアセスメントの問題点

- 地形変化(海底の砂の動き)についてのアセスをしていない
→ 「人工島方式で干潟が残る」の科学的根拠なし
- アセスで予測していない異常事態が発生しても、要因の科学的な検討と保全措置をとらない
→ 「着工後の環境変化はすべて台風のため」(H19年7月の既往最大級の台風)
 - ・台風と、海草群落の生育状況および地形変化の関係についてなんら科学的な説明はされていない
 - ・アセスでは台風を見込んだ予測、環境保全措置はなされていない
→ 希少種や新種が発見されても「モニタリングをしながら工事を進める」「他の場所にもいるから特段の対応はしない」
- アセスに記載された「環境保全措置」は保全措置とはいえないもの
→ 人工干潟、海草・クビレミドロの移植では保全できない
 - ・ミティゲーションの基本的な検討プロセスを踏まず(回避一最小化一低減一代償)、失われることを前提にして、代替案や次善の策を検討せず、いきなり代償措置を持ち出している
- 環境監視委員会、市民、専門家の意見を聴かない
→ 事業者が設置した環境監視委員会は形骸化し、事後の監視調査プロセスへの市民参加が欠落